

令和6年度津山・英田圏域地域医療構想調整会議議事録概要

日時：令和6年5月30日(木)

18:00～19:30

場所：津山保健センターホール

1 開会

2 美作保健所長挨拶

平素から保健福祉行政にご尽力・ご協力いただき感謝している。

この数年この圏域の課題として、働き手の確保がある。どの業界も同じだが、とりわけ保健・医療は今後も需要が減ることがない中、どう維持強化していくのか、我々のやるべきことだと認識している。

本日は2025年に向けた国や県の動向について情報共有するとともに、昨年度から課題として取り上げている救急医療の課題解決の具体策について協議させていただきたい。

3 議長選出及び副議長指名

議長：宮本 亨 委員（津山市医師会長）

副議長：塩路 康信 委員（美作市医師会長）

林 同輔 委員（津山中央病院長）

藤本 宗平 委員（芳野病院理事長）

4 議題（司会：宮本議長）

(1) 地域医療構想等について

① 国・県の動向について

（資料1について岡山県医療推進課説明）

<議長>

・先ほど説明のあった「新たな地域医療構想等に関する検討会」のメンバーに、当圏域の鏡野町健康推進課の石原課長がおられるので、ぜひ国の検討状況等について紹介をお願いしたい。

<健康推進課石原課長（鏡野町長代理）>

・この度、町村会からの代表として、「新たな地域医療構想等に関する検討会」に参加している。座長を学習院大学遠藤学長とし、21名で構成されている。会の流れについては、先ほどの医療推進課から説明の通り。月に2回検討会があり、各団体からヒアリングを行い、意見を聞いているところ。これが秋までに終わり、中間まとめの予定である。

・現在17団体の話を伺った。この会に参加して思うのは、今後の地域医療構想の議論は、病床をどうするかではなく、医療と介護の連携を強化し、在宅での医療介護を進めるためのシステム作りが大切かと思う。深刻化している在宅医療を担う診療所の医師の高齢化、医療と介護人材不足等、他の市町村も同様の課題があるかと思う。

・本会議から検討会に対し伝えたいことがあれば、伝える等お手伝いさせていただきたい。

<議長>

・こちらの情報を国へ上げるとともに、ぜひ、今後どのような方向に進むのか等、この会だけではなく、地域に還元していただきたい。

② 外来機能報告について

※医療機関の経営に関する情報を扱うため非公表とする。

③ 病床機能報告について

※医療機関の経営に関する情報を扱うため非公表とする。

<県病院協会オブザーバー>

- ・新しい地域医療構想は病床機能から、介護を含めた在宅医療をどうしていくかということも重要になるだろう。国は今年中に方向性を決めようとしているが、日本病院協会の理事会でも話題になったが、地域密着型の病院をどう担保するのか、人口減少でスタッフ患者も減る中で心配なところ。
- ・いくら高齢者が増加しても、きちんとした治療が行われることは必要。かかりつけ医をどのように担保していくのか今後重要な問題になる。病院・クリニック・施設がどう役割分担していくかが重要である。特に、人口減少が大きい地区では課題が多いのでよい医療体制介護体制を作っていただきたい。

<県医師会オブザーバー>

- ・県の方もつかんでいるだろうが疾病の動向について、203年頃までは人口減の中でも、高齢者の疾患（循環器・呼吸器・救急）が増加する傾向にあるの中で、今後医師会も関与して、どのような疾患が増えるのか考えていっていただきたい。どう機能分化しながら患者を診ていくか先進的に考えていっていただきたい。
- ・県医師会でも、高齢者の救急搬送については岡大にコールセンターを置く等疾病の状態に応じてアドバイスがもらえるようにしている。これについても ACP、即 DNAR ではなく、状態が悪くなった際どこまで治療を希望するのか、介護施設の方でもきちんと把握することで変わってくるかと思う。
- ・下り搬送について、津山中央病院が関連医療機関と話し合うなど対応されているが、救急搬送後どのくらいの日数で退院している、どういう疾患が多いのか等、共有しながら進めていかれるとよいと考える。

<地域医療構想アドバイザー：浜田先生>

- ・林院長の話について、衝撃を受けた。救急について理解を深めることができたので、ぜひ一般の方々にも理解を深めてもらえるとよいと思う。
- ・この人口減少の中で救急搬送件数が毎年増えていることをどうやって減らすのか、今後考えていく必要がある。今回、特に医師同士の交渉がストレスになるというのは説得力のあるお話だった。